

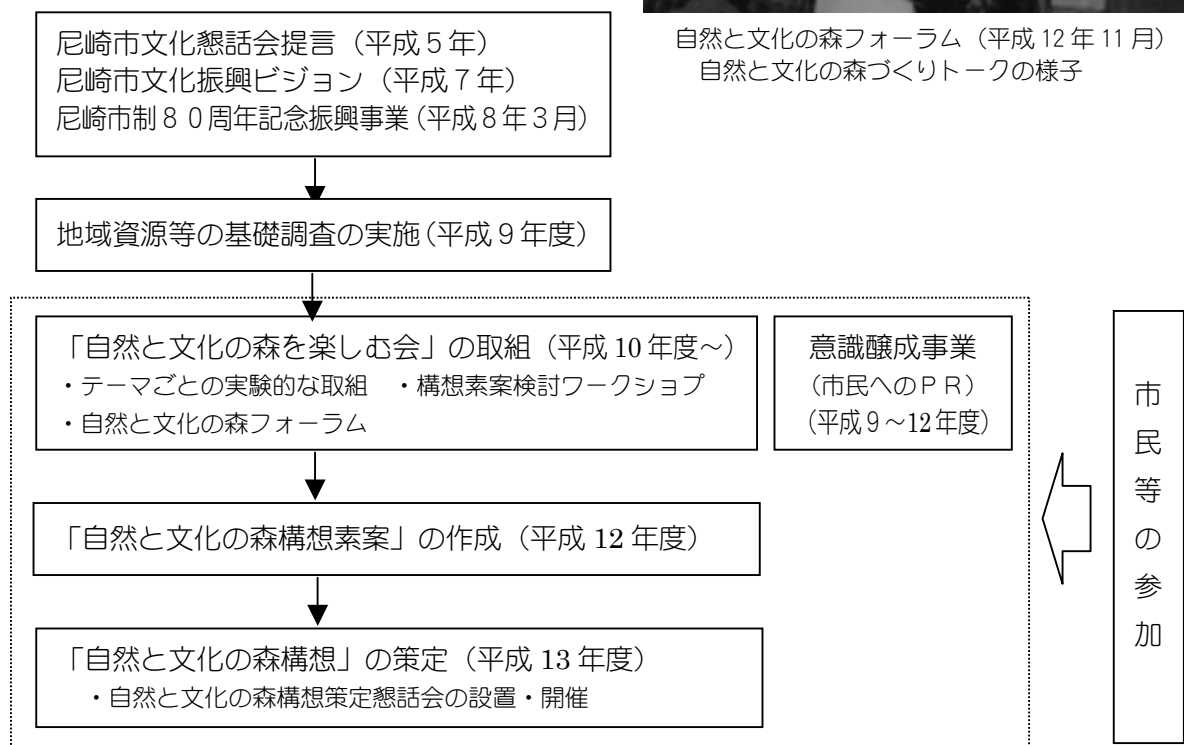
資料編

■これまでの経過

- ・「自然と文化の森」という言葉は、平成5年に発表された尼崎市文化懇話会提言「魅力ある文化の舞台あまがさき」において初めて使われました。その提言では、「農業公園、田能遺跡を一帯とした自然と文化の森の整備」として記述されています。それを受けて、平成7年に策定された「尼崎市文化振興ビジョン」で、田能資料館の整備充実、猪名川自然林などを含む「自然と文化の森整備構想の策定」として位置づけられました。
- ・こうした流れを受け、平成8年3月には、尼崎市制80周年記念振興事業として「自然と文化の森整備構想の策定」が位置づけられ、市としての取組が開始されました。
- ・構想の策定にあたっては、平成9年度に地域資源等の基礎調査を実施し、平成10年度には市民公募による構想の検討組織として「自然と文化の森を楽しむ会」を結成し、活動を行っていくとともに、一方で、「自然と文化の森」を市民にPRするために、市主催の写生大会や野外コンサートなど意識醸成事業も行ってきました。
- ・自然と文化の森を楽しむ会では、構想素案についてワークショップで話し合ったり、多くの市民が参加する「自然と文化の森フォーラム」や、水辺や農業・緑、歴史・文化等をテーマとした実験的な取組を企画・実施することにより、その成果や課題を構想素案に反映させるように努めました。
- ・こうした取組を踏まえて、「自然と文化の森を楽しむ会」と市との協働により、平成12年度に構想のたたき台として、「自然と文化の森構想素案」をつくりました。それを受けて、平成13年度には、市民、地域住民、学識経験者、関係機関からなる「自然と文化の森構想策定懇話会」を設置、開催し、「自然と文化の森構想」を策定しました。



自然と文化の森フォーラム（平成12年11月）
自然と文化の森づくりトークの様子



【平成 7 年度、 8 年度】

平成 8 年 3 月に、尼崎市制 80 周年記念振興事業として、自然と文化の森構想の策定を、以下のよう
に位置づけました。

- 猪名川と藻川に囲まれた地域及びその周辺を対象に、そこにある自然環境資源や歴史・文化資源を全市的な財産として捉え、保全・活用しながら、市民が誇りに思い、多くの人が憩い、楽しみ、学ぶ地域とする構想づくりを進める。
- 市民・事業者との協働により取り組むモデルとして構想づくりを進める。

【平成 9 年度】

自然と文化の森構想を策定推進していく初年度に当たる年として、地域の状況や進め方などに関する基礎的な調査を行いました。

- 地域に関わる基礎的情報の整理（地域資源調査カルテ）
- 資源の評価と活用可能性の検討
- 今後の展開方向の検討
- 意識醸成事業の実施
 - ・猪名川公園野外コンサート
 - ・写生大会
 - ・フォトコンテスト
 - ・猪名川・藻川の自然などを詠む会

【平成 10 年度】

平成 9 年度の基礎調査を踏まえ、市民と協働の取組による構想づくりを進めるため、市民公募により「自然と文化の森を楽しむ会」を設立し、活動を開始しました。

- 市民公募による「自然と文化の森を楽しむ会」の設立
- 自然と文化の森を楽しむ会を中心に、体験型の市民ワークショップの実施（7 回）
- 猪名川自然林等の植生調査の実施
- 意識醸成事業の実施
 - ・猪名川公園野外コンサート
 - ・自然を観察する会

【平成 11 年度】

平成 10 年度のワークショップ活動の成果を踏まえ、自然と文化の森を楽しむ会を中心に、具体的な活動を検討し、実施しました。

- 自然と文化の森を楽しむ会による市民ワークショップの実施（11 回）
- メダカの飼育ボランティアの実施（うるおいある水辺環境を考えるため、メダカの飼育をしてもらうボランティアを募集し、メダカを配布、応募者約 200 名、配布者約 100 名）
- 自然と文化の森を楽しむ会の中に、より広い視野から、機動的に活動を展開し、「水辺部会」「農業・緑部会」「歴史・文化部会」を設置
- 意識醸成事業の実施
 - ・猪名川公園野外コンサート

【平成 12 年度】

自然と文化の森を楽しむ会を中心に、これまでの活動を継続・発展するとともに、「自然と文化の森構想素案」づくりを行いました。

- 自然と文化の森を楽しむ会による市民ワークショップの実施
 - ・全体会で 12 回開催、全体会の前に各部会を実施、各部会のメンバーの拡充も図る。
 - ・水辺部会：メダカの飼育ボランティア関連の取組実施（アンケート、飼育相談・交流会、放流会）、水辺ウォッチングの実施
 - ・農業・緑部会：農作業サポーター事業（里芋づくり）の実施、猪名川自然林ワークショップの実施
 - ・歴史・文化部会：タウンウォッチング&ワークショップの企画・実施
- 自然と文化の森フォーラムの実施（11 月 23 日、約 160 名参加）
 - ・自然と文化の森を楽しむ会の部会活動と地域団体の活動状況の報告
- 「自然と文化の森構想素案」づくりの作業（全体会 4 回及び部会別検討）
- 里山づくり体験事業（猪名川自然林を知ろう、遊ぼう、体験しよう！）の実施
- 意識醸成事業
 - ・猪名川公園野外コンサートについては、雨のため中止

【平成 13 年度】

自然と文化の森構想策定懇話会を設置し、「自然と文化の森構想」を策定するとともに、自然と文化の森を楽しむ会では、これまでの取組を継続・発展させる形で活動を行いました。

- 「自然と文化の森構想」の策定
 - ・市民、学識経験者、行政からなる自然と文化の森構想策定懇話会を設置し、4 回の懇話会を踏まえて、「自然と文化の森構想」を策定しました。
- 自然と文化の森を楽しむ会による活動実施
 - ・会の運営や催しを話し合う会合を実施（10 回）
 - ・田能の里芋づくりを行う、農業体験学習講座を実施（14 回）
 - ・「自然と文化の森・収穫祭」を開催（11 月 25 日、白井神社）
- 里山づくり体験事業（猪名川自然林を知ろう、遊ぼう、体験しよう！）の実施

■「自然と文化の森を楽しむ会」とは

- 「自然と文化の森構想」を検討・推進する市民からなる会で、平成10年度に市が公募を行い、現在約50名の会員が登録しています。
- これまで、「メダカの飼育ボランティア」、「農業サポーター」、「自然林体験」や「我がまち再発見」など、実験的な活動を行ってきました。
- 平成13年3月末に、多くの市民の意見を踏まえて、行政との協働により、「自然と文化の森構想素案」を作成しました。
- 引き続き活動を継続するとともに、構想策定懇話会にも参加し、一緒に構想を検討しました。

【これまでのおもな取組】

取組	概要
自然体験ワークショップ (平成10年11月)	国際文化室や環境政策課と連携し、自然と文化の森を楽しむ会と公募市民を対象に、自然林の観察ウォーキング、木っ端細工などの野遊び体験、ネイチャーゲームなどを実施
農業体験ワークショップ (平成10年10月)	自然と文化の森を楽しむ会による、田能の農業に関する講義、農業公園でバラ摘み体験、稲刈り体験、ミツバチによる蜂蜜づくりの見学等
歴史・文化再発見ワークショップ (平成10年12月)	自然と文化の森を楽しむ会により、園田地域の歴史の講義、歴史探訪ウォーキング（都市美形成建築物の内部、水路、田能集落、田能資料館）を実施
メダカの池掘り体験 (平成11年9月)	園田公民館と連携し子どもとその家族の参加を得て、市立尼崎高等学校第2グラウンド横の敷地で、メダカの池掘り体験を実施
メダカの飼育ボランティア (平成11年7月～平成12年9月)	自然と文化の森を楽しむ会の会員が育てたメダカを市民に配布、飼育してもらうことにより、水辺を中心とする身近な環境について考えてもらうこと、人のネットワークをつくることを目的に実施。配布後、飼育相談・交流会、アンケート調査、田能資料館の池で放流会を実施
ステキな水辺ウォッチング (平成12年10月)	住宅地や集落、農業公園内の水路を中心に、対象地域の主要な水辺を実際に歩いて視察。水路の中に入って生き物の生息も簡単に調査
農作業サポーター事業 (平成12年5月～12月)	自然と文化の森を楽しむ会を中心に、遊休農地で、農家の指導のもとに、田能特産の「里芋」づくりを実施
わがまち再発見タウンウォッチング&ワークショップ (平成12年9月)	園田地域の住民を対象に、自然と文化の森を楽しむ会主催で実施。地域の歴史・文化、建物など多様な資源を歩いて再発見し、ワークショップにより発見したものをまとめ、今後のあり方について意見交換
里山体験事業 (平成12年9月～12月)	花さくまち推進室・園田公民館と連携し、自然と文化の森を楽しむ会と公募市民を対象に、専門家による猪名川自然林の講義、植生調査実習、管理作業体験、木っ端細工遊び、バームクーヘンづくり、意見交換などを実施
自然と文化の森フォーラム (平成12年11月)	専門家による猪名川自然林についての基調講演を実施 農作業サポーター事業で収穫した里芋を利用して、郷土料理「のっぺい汁」をつくり、参加者にふるまった。また、メダカの飼育ボランティアなど、水辺のあり方について発表を行った
農業体験学習講座 (平成13年5月～12月)	自然と文化の森を楽しむ会により市民を募集し、遊休農地で、農家の指導のもとに、田能特産の「里芋」づくりを実施
自然と文化の森・収穫祭 (平成13年11月25日)	自然と文化の森を楽しむ会主催で、白井神社を会場として、のっぺい汁をふるまうとともに、里芋等の販売、これまでの活動報告なども行った



里山体験事業（平成12年10月）
（猪名川自然林を知ろう、遊ぼう、体験しよう！）



自然と文化の森フォーラム（平成12年11月）
服部先生（兵庫県立人と自然の博物館）による講演



メダカの飼育ボランティア・説明会（平成11年10月）



メダカの池掘り体験（平成11年9月）



農作業サポーター事業（平成12年8月）



自然と文化の森フォーラム（平成12年11月）
「のっぺい汁」を参加者が試食した



わがまち再発見タウンウォッチング&ワークショップ
（平成12年9月）



自然と文化の森・収穫祭／白井神社
（平成13年11月）

■ 5 2 の取組アイデア集

この5 2の取組アイデア集は、構想素案づくりに参加した市民や各実験的実践事業を通じて出された意見などを集約して掲載したものです。今後、構想を進める際に、これらのアイデアも参考にします。

【全体に関わるもの】

1. 「自然と文化の森ニュースレター」など広報・PR活動
 - ・会報の作成
 - ・インターネットホームページの開設と管理運営
 - ・公民館・地区会館・町会会館等の定例行事（講座）の合同案内
2. 「自然と文化の森の活動拠点」づくり
 - ・会議を行ったり、機材や資料を保管できる場所づくり
 - ・使用例：体験農場など、無くなる農地を協働で守り育てる、園田競馬場の東駐車場の活用を検討（体験農場や便所・駐車場活用）、駐車場活用をとおして、周辺へのネットワークを整備
3. 自然と文化の森のイベントづくり
 - ・各分野の活動成果の発表・交流、森コンサート、展示会、写真展、工芸展、紹介講座などのイベント実施
4. 「自然と文化の森賞」などの奨励制度や取組の創設
 - ・コンクールの開催（例：自然と文化の森の景観にふさわしい家、庭、ガーデニングなど）
 - ・自然と文化の森賞の設置（取組に対する奨励制度）
 - ・感謝状の発行（例：地域の美化活動など）
5. 自然と文化の「みち」づくり
 - ・ルートの設定
 - ・愛称の設定
6. サインの整備（案内板や説明板）
 - ・自然と文化の森のロゴマーク等C I（コポレイトアイデンティティ）の策定
 - ・資源、施設等への説明板の設置（歴史関連資源、樹木等自然資源…）
 - ・ルートや駅、公園などでの案内板や案内図の設置
7. 便所整備等
 - ・散策コースなどの中で、必要なところでの便所設置
8. 猪名川・藻川歩行者自転車道の整備
 - ・堰堤周遊コースの自動車道との交差部分改良：安全整備
9. アクセスの改善等
 - ・地域へアクセスするバス便の増強やルートの見直し
 - ・主要施設・資源における駐車場の整備
 - ・地域内ループバスの運行（自然と文化の森号等）
10. レンタル自転車の活用
 - ・駅などにレンタル自転車を設置し、自然と文化の森周辺をサイクリングで観光できるようにする。

1 1. 自然と文化の森に関わる人材育成

- ・自然と文化の森に関わる人を増やし、理解をたかめるため人材育成に取り組む。

1 2. 自然と文化の森ガイドの養成

- ・各分野ごとの案内人養成と認定制度を創設する。

1 3. 子どもが学べる農や水辺の空間づくり

- ・農地や畦、水路、水辺などで子どもが入り、学べる空間づくり

1 4. 学校との連携・子どもとの連携

- ・小・中学校の子どもや地域の子供会と一緒に学習や遊びができるような連携を進める。
- ・学校関係では、平成 14 年度から始まる総合的な学習の時間、クラブ活動、夏休みの宿題、一般の授業などとの連携、地域では子ども会や公民館などとの連携が考えられる。

1 5. 自然と文化の森のスターづくり

- ・キツネ等のほ乳類や鳥類、ヒメボタル等の昆虫、希少植物などの象徴的な生き物の生息を調査・確認し、自然と文化の森のスターやシンボルとしての活用策を検討する。

【水辺分野】

1 6. 水路調査

- ・水辺ウォッチングの第 2 弾として、水路について、メダカなどの生き物の生息、子どもの遊びや安全性の視点から調査する。

1 7. 自然と文化の森「水辺のベストスポット」選び

- ・アンケートなどにより、一番好きな水辺について選定する。

1 8. 水路でのイベント

- ・子どもによるザリガニ釣り大会（田能周辺）
- ・「水辺の縁台」「水辺祭り」などを開催し、生き物の紹介やザリガニ釣り大会、ドジョウすくいなどを実施（東園田町 4 丁目付近）

1 9. 水路や河川の清掃活動

- ・地域の社会福祉協会や子ども会と連携して、水路の清掃を行う。
- ・河川愛護団体と連携して、河川の清掃活動を行う。

2 0. 生き物が住め、楽しめる水路づくり<近自然型>

- ・水路の一部で、生き物が住め、子どもなど訪れる人が楽しめるよう改修や工夫をする。
- ・対象地域の候補としては、農業公園南側の菖蒲園横の水路がある。水辺に近づきやすく、生き物が今でも豊富で、周辺の雰囲気もよい。
- ・他の候補としては、園和北小学校東側の水路がある。子どもが遊べる場所として、子どもたちと一緒に取り組むことも考えられる。学校の中には水路が通っており、それも含めて学校と一緒に取り組むことも考えられる。

2 1. 生き物が住め、楽しめる水路づくり<景観型>

- ・水路の一部で、景観的に水辺を楽しめるよう工夫する。
- ・東園田町 4 丁目付近の水路や西浦公園付近などで、植物のプランターを設置したり、水生植物を植栽して、景観的に演出する。

2 2. 猪名川・藻川の河川敷管理への参加

- ・堤防法面の市民参加による管理、草花植えが考えられる。

- ・アイデアとしては、七草の植栽、季節を表す花による堤防の演出などが考えられる。

2 3. 田能資料館での「弥生の水辺づくり」

- ・現在池に生息している放流されたメダカについて、隠れ家づくりや水草植えを行う。
- ・田能資料館の池の本格的整備について検討・支援する（弥生風の水辺、水田づくり等）。田能資料館全体の活用のあり方も含めて考えることが必要である。
- ・田能資料館での体験学習と連携し、赤米づくり、弥生にちなんだ植物育成等をするこゝも考えられる。

2 4. 利椎富池の整備・活用

- ・釣り大会、カヌー体験、イカダづくり体験
- ・バードウォッチング案内場所の設置や観察場整備（野鳥園の整備等）

2 5. 農業公園の活用

- ・公園内の水路について、メダカ等が生息できるような改修を行う（木橋の下に壺の設置など）。
（薬剤散布や管理との調整が課題）
- ・公園内の水路を改修するか、新たにビオトープ池をつくって、ガマ、ハスなどの水生植物を植栽し、生き物が生息でき、子どもも中に入って遊べるようにする。
- ・この水路や池を活用したイベントを実施する。例えば、水生植物を活用して紙すきや、お手玉づくり、スダレづくりの体験を行ったり、クレソンやクウシンサイなどを試食してみる。またガマを生け花用として売り出すこゝも考えられる。

2 6. 水生昆虫、魚などの飼育・展示・アピール

- ・水路清掃や水路で見つけた水生昆虫、魚を水槽で飼育・展示してアピールする。設置場所としては園田公民館、阪神水道企業団猪名川事務所など地元の施設が考えられる。

2 7. 淀川水系流域会議・猪名川部会との連携

- ・住民、専門家、行政で流域について考える会と連携して、猪名川・藻川のあり方についても検討

2 8. 猪名川を散策できる橋の設置

- ・猪名川の水量が少ないときに、川の周辺風景を楽しみながら渡ることができる、木橋などを設置する。

【農業分野】

2 9. 農業公園の活用とグレードアップ

- ・農業公園のファンクラブ（友の会等）を組織化する。
- ・農業を見たり、知ったり、体験する拠点として整備・活用する。
- ・周辺の農地と連携し、周辺農地で収穫できるものを農業公園で販売する。
- ・園田の農家の農機具などの保存・展示場所の設置
- ・農業講習会、バラの剪定教室等の実施
- ・農産物加工品の開発、料理教室ができるような場づくり
- ・駐車場の整備、園田競馬場の駐車場を活用するなど連携するこゝも考えられる。

3 0. 農地保全の仕組みづくり

- ・農業体験、プログラムを実践しながら、農地保全の仕組みについて、主体、費用、法制度、税制度面等も含めて検討する。

3 1. 特産物などのオーナー制度の創設

- ・里芋などの特産物の市民オーナー制度をつくり、市民の農業に関する理解と愛着を高める。

3 2. 農業体験・プログラムの推進

- ・日常的に管理するような人の体制やその裏付けとなるお金の「しくみ」や「システム」づくり
- ・学校との連携、親子を対象として、生協などと提携することも考えられる。
- ・現場に道具やその置き場、トイレなどの整備
- ・園田で植栽する花育て

3 3. 食文化の発掘・開発・発信

- ・「里芋」にとことんこだわって食文化としてもっとアピールする。例えば、市民まつりなどのイベントへの出展・試食・販売
- ・里芋料理の研究・開発。
- ・その他の食文化の研究・開発。大麦からビールづくり、サツマイモから干し芋づくり、大豆から納豆づくり、大根から千切り大根・たくあんづくり

3 4. 収穫物の販売

- ・収穫物を「朝市」「夕市」、駅前の店先などで販売する。
- ・市民まつり等での売店

3 5. 農の風景の保全と演出

- ・稲のだて掛け（はざ掛け）での演出
- ・農地や畦、河川敷へのヒガンバナ等の植栽による演出

【緑分野】

3 6. 市立尼崎高等学校第2グラウンドの暫定利用後の将来活用の検討

- ・園田地域全体を人と自然が共生できるような地域にするための、ランドデザインの検討。

3 7. 自然林の資源としての活用

- ・自然林の木を使った楽器（ホルン等）作り、カヌーづくり
- ・チップ化して薫製に利用
- ・農業と連携して落ち葉等による堆肥づくり

3 8. 自然林のあり方の検討

- ・兵庫県のレッドデータブックなどへの掲載を検討（貴重性や重要性のアピール）
- ・佐璞丘公園の自然性、歴史性を活かした森づくりの検討
- ・子どもたちが遊べる森にする（水路などの整備も含む）、四季が感じられる森にすることも考えられる。
- ・自然林は一様ではなく各々の地域で特徴があり、ゾーニングして方向付けする。
- ・河川のショートカットや区画整理時の経緯を尊重すべき（自然林として残したことの意味）。また、隣接する豊中市との調整も必要
- ・怖いというイメージもある。子どもや女性の視点から死角を点検することも必要（便所など）

3 9. 市民参加型の現状調査

- ・猪名川自然林のあり方を検討する前提として、現状調査を市民参加、周辺の住民参加により行う。
- ・調査項目としては、植生など森の生態の他、生息する昆虫や野鳥・動物、子どもの遊びの状況、

心地よい場所、危険な場所、よい景観、周辺の住宅との関係など、さまざまな視点から森の実態や利用・活用に関する項目が考えられる。

4 0. 森で遊び、学べる魅力的なメニューの実施

- ・子どもなどを中心として、自然について身近な場所で遊び、学べる魅力的なメニューを開発し、実施する。
- ・自然林の管理作業体験の実施
- ・市民や周辺に住んでいる住民に森について学んでもらう講習会。
- ・生き物のシンボルとして昆虫などに注目することも考えられる。
- ・木っ端細工やバームクーヘンづくりなど森の資源を活用した楽しい取組の実施
- ・子どもが危険についても学びながら、森の中で木を切ったり、基地をつくるなどして遊ぶプレイパークなどの取組の検討
- ・自然林等で清掃活動を行う。

4 1. 里山づくりグループなどと連携

- ・里山づくりグループなどと連携を進め、様々な里山管理プログラムなどを実施する。

4 2. 「みどり」に関する情報誌づくり

- ・猪名川自然林から公園、街路樹、個人宅の庭までを対象とした「みどり」の情報誌づくりを行い、「みどり」に対する関心を高めてもらう。
- ・ガーデニングや野鳥など身近な事項をテーマとして扱い、最終的には猪名川自然林等へも関心を高めてもらうことをねらう。

4 3. 植栽可能な場所への植樹

- ・河川堤防や空き地などで植栽可能な場所に、樹種や維持管理方法等を十分検討した上で植樹する。

【歴史・文化分野】

4 4. 歴史・文化の調査・研究・学習

- ・旧村（小字）と現況の重ね図をつくる。
- ・現・旧の水路図をつくる。（例：三俣井の西ノ川は現園和住宅内の水路から神田氏邸の北から東へ流れ、現水田の北東を回って白井神社の鯨の池へ注いでいた）
- ・猪名川・藻川の現・旧位置図を画く。
- ・猪名川・藻川の舟泊まりを標示、説明（椎堂：橋本保邸東、富田：旧船詰神社東南、法界寺：五段長南、戸ノ内：旧猪名川庄本との渡し）
- ・昔の原風景や行事などの写真収集

4 5. 森の伝承の記録づくり

- ・文書に残されていない伝承を古老から採取する（船詰神社の御神体、合祀されて無くなった社寺の存在した所、失われた祭、牛廻しの類、トンドの作り方、戦災や洪水で失われた所など）。

4 6. 自然と文化の森・歴史文化教材づくり

- ・学校・青少年や新しく転入された方々へ、地域の歴史や文化を伝える教材をつくる。

4 7. 自然と文化の森ウォッチングの定期開催

- ・分野別や地域別など多様なコースを設定して、年2回（春・秋）程度開催

4 8. 自然と文化の森案内パンフレットの作成

- ・案内図の作成（トイレなどの記載）
- ・目的別の案内パンフレット・マップづくり（樹木、生き物など）

49. 祭・行事・御輿・だんじり・伝統舞の記録づくり・復活

- ・各社寺、各町会に呼びかけ、現存及び失われたもののリストと記録をつくる。
- ・各社の大祭や舞の復活、穴太のなまずの山車の復元などを働きかける。

50. 田能資料館等の充実・活用

- ・弥生体験学習の充実、赤米づくりなど
- ・園田地域の史料館の設置検討

51. 「まちのお宝博物館」の指定

- ・地域内の貴重な建築物や、貴重な家財道具や趣味で収集した個人的なお宝を所蔵する住宅等を「まちのお宝博物館」として指定する。
- ・まちのお宝博物館マップの作成
- ・開館日を設定して、見学できるようにする。また見学ツアーなども開催する。

52. 園田競馬場との連携・活用

- ・競馬場でのイベント開催、馬を活用した催し企画
- ・競馬場の駐車場の活用

■自然と文化の森構想策定懇話会

自然と文化の森構想を策定するために、市民、地域住民、学識経験者、関係機関からなる「自然と文化の森構想策定懇話会」を、平成13年11月26日～平成14年3月31日の期間設置し、その間に懇話会を4回開催しました。

第2回以降の懇話会は、傍聴者の出席が可能で、意見交換にも参加し、懇話会の委員と共に考え、話し合いました。

【自然と文化の森構想策定懇話会委員】

委員名	役職・団体等
栗生 明男	田能社会福祉連絡協議会会長
勝山 芳明	園和社会福祉連絡協議会会長
佐藤 亮	自然と文化の森を楽しむ会世話人
柴田 光啓	園田東地区子ども会会長
千頭 聡	日本福祉大学情報社会科学部助教授
畑 喜一郎	自然と文化の森を楽しむ会世話人
○服部 保	姫路工業大学教授 自然・環境科学研究所長、人と自然の博物館次長
久 隆浩	近畿大学理工学部助教授
松田 佑	自然と文化の森を楽しむ会世話人
◎山崎 寿一	神戸大学工学部助教授
山田 曙	国土交通省近畿地方整備局猪名川工事事務所調査課長

◎印は座長 ○印は副座長

(敬称略/五十音順)

事務局 尼崎市企画財政局企画部都市デザイン担当

【自然と文化の森構想策定懇話会の開催経過】

懇話会	年月日	検討概要
第1回	平成13年 12月13日	懇話会の設置、座長・副座長の選出・指名 これまでの経過報告 意見交換（対象地域との関わりや思い、構想の理念や進め方等）
第2回	平成14年 2月2日	現状での到達点と課題の報告 市制100周年における自然と文化の森のイメージ（夢）の検討
第3回	平成14年 3月3日	自然と文化の森構想（案）の検討
第4回	平成14年 3月23日	自然と文化の森構想（案）の検討 構想の進め方の検討

自然と文化の森構想

－平成14年策定－

発行 自然と文化の森構想策定懇話会・尼崎市
編集 尼崎市企画財政局企画部都市デザイン担当

<問い合わせ先>

平成14年4月より

尼崎市企画財政局都市政策部都市政策課
〒660-8501 尼崎市東七松町1丁目23番1
TEL 06-6489-6147 FAX 06-6489-6793
URL <http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/>
e-mail ama-tosiseisaku@city.amagasaki.hyogo.jp